



平成 18 年 9 月 14 日

各 位

会 社 名 モロゾフ株式会社
 代表者名 代表取締役社長 川喜多佑一
 (コード番号 2217 東証・大証第1部)
 問合せ先 代表取締役副社長 松村有芳
 (TEL. 078-822-5000)

中期経営計画『プロジェクトM』の進捗について

2006年1月期から2008年1月期までの3カ年を実行期間とする当社の3カ年中期経営計画『プロジェクトM』は、以下の4項目を柱とし「持続的成長と構造改革の加速による高効率経営の達成」を目指してスタートしました。

- ①新業態、新チャネル開発展開の加速による売上・利益の確保
- ②商品品質、サービス品質の安定向上による安全安心の確保
- ③顧客第一主義の徹底によるブランド品位の向上
- ④環境への配慮、IRの積極的取組みによる企業価値の向上

これらは、【中期経営計画、単年度予算、目標管理制度を基盤としてPDCAのサイクルを機能させ、業績のV字回復を達成するとともにその進捗を適時適切に情報開示する】事を基本として継続して取り組んでおります。

1. 『プロジェクトM』の進捗

2005年度(2005年2月~2006年1月)

- 数値計画の進捗

2005年度	当初計画(a)	実績(b)	差異(b-a)
売上高(百万円)	24,200	24,866	+666
営業利益(百万円)	370	349	▲21
ROE(%)	2.0	1.6	▲0.4

売上高は計画を666百万円上回り、第2年度の目標値に近い数字を達成する幸先の良いスタートが切れたものの、原材料費の高騰による売上原価の高止まり等により営業利益は計画を21百万円下回りました。尚、ROEについては当期利益が若干計画を下回った上、利益剰余金の増加や有価証券評価差額金の増加に伴う自己資本の増加により、計画を0.4%下回りました。

2006年度(2006年2月~2007年1月)

- 数値計画の進捗

2006年度	当初計画(a)	見込み(b)	差異(b-a)
売上高(百万円)	24,900	25,500	+600
営業利益(百万円)	450	500	+50
ROE(%)	0.2	1.3	+1.1

2006年度については、上半期を経過した段階ですが2005年度と同様順調に推移して

おり最終的には当初計画を上回る見込みとしております。

その理由として、

- ① 2006年度上半期においては前年から引続き好調な売上を継続しており、2006年度通期計画においても当初計画を6億円程度上回る売上高予算に増額修正いたしました。現時点での見込みとして充分達成可能な目標と考えております。
- ② 損益的には、原材料費の高騰に加え六甲アイランドオフィスへの集約による跡地【P&Pスタジオ（神戸市中央区）、本社別館（神戸市東灘区）】の売却や減損会計の適用による損失もありますが、増収に加え継続中のスリム化による固定費の削減により各利益段階では当初計画より若干の増加となる見込みです。（なお、業績好転に伴う税効果会計の影響により当期利益は150百万円に上方修正しております。）

2007年度（2007年2月～2008年1月）

● 数値計画

2007年度	当初計画(a)	今回計画(b)	差異(b-a)
売上高(百万円)	25,400	26,000	+600
営業利益(百万円)	700	700	0
ROE(%)	6.0	6.0	0

最終年度の数値計画は前2年度の増収傾向を反映し、当初計画に対し売上高は6億円増加させますが、競争激化に伴う新商品の開発速度の加速や売上原価の高止まり等の不確定要因を考慮し営業利益およびROEに関する目標数値は変更いたしません。

各戦略の進捗について

●各戦略項目毎（プロジェクトMで掲げた3つのM）の検証

MONUMENT（モニュメント）

創業75周年のMONUMENT（記念碑）として建設した六甲アイランドオフィスへの集約が完了し、集約による効果に加え跡地の売却も極めて順調に進行したことによりキャッシュフローが大幅に改善し、建設投資の回収見込みを大幅に短縮しました。

今後は集約による有形無形の効果が損益をより一層好転させると予想しております。

MOVEMENT（ムーブメント）

IRへの取組みは2006年4月に専任部署を設置し今後積極的なIR活動を目指して活動していく予定です。また、現行のISO9001に加え、環境対応としてISO14001についても2年後の取得を目指し準備を開始いたします。

MARKETING（マーケティング）

販路の拡大戦略については増収および業績改善に大きく貢献しており、3ヵ年計画における大きな柱となりました。次世代ブランドの展開は計画に対し若干遅れ気味ではありますが、今後巻き返しを図っていく予定としております。これに伴う現行ブランドの整理については、「選択と集中」の観点から並行して進めてまいります。生産体制再構築については予定通り2006年度において完了いたしました。今後は供給能力の向上と製造原価低減に大きく寄与する予定としております。

2. 『プロジェクトM』の今後の予定

V字回復を目標とした3カ年中期経営計画『プロジェクトM』は丁度折り返し点を過ぎた時点では順調に進行しております、残る期間につきましてもこのままの勢いで計画完遂を目指してまいります。

現時点では基本的な戦略は変更せず、激変する市場環境に対応するために適宜適切に軌道修正を行いながら「持続的成長と構造改革の加速による高効率経営の達成」を目指してまいります。

なお最終年度の数値目標については充分達成可能と見込んでおり、これを上回る経営成績を目指し全社一丸となり業績向上に邁進していく予定です。

以 上

本資料の見通し、計画などに関する記述は本資料作成時点において入手可能な情報をもとにした当社の予測であり、実際の実績はこれと異なる可能性があります。